

朝日を浴びて色づく鶯の葉に秋の訪れが

英語学習・国際プログラム

英検一級合格続々

My name is Haruto Maeda. I lived in America for eight years. To be honest, I have not really studied English at all since I moved overseas when I was little. However, studying for the Eiken exams was the toughest time in my life. I passed the 2nd grade easily, and the pre-1 grade was easy too. But the 1st grade, the hardest grade, was very difficult. In the 1st grade, there are stories and essays, but the most hardest for me was the interview. In the interview, one must present a 2-minute speech in one minute. In addition, the topic of the speech is written on a card, which is given to the examinee right before preparing the speech. Therefore, it would be largely advantageous to have broad knowledge. To study, I thought the news would be perfect to watch. So, three months before the exam I started watching CNN news everyday on my phone. In less than a week, I already knew at least ten new words, three months later, I passed the Grade 1 exams. Thus, I highly



recommend watching CNN news. Plus, it's possible to download on your phone, so you can watch it anywhere. In conclusion, I believe if you really try hard in learning English, anyone can do it. You may not believe me, but it is true. (中一 前田晴翔)

英検一級と語学学習について  
二〇一七年度の第一回の試験で僕は無事英検一級を取得することができました。一度目の挑戦では手も足も出ずとても悔しい思いをしました。実はあまり自信があったわけではない二度目の受験で合格できて本当に嬉しかったです。

僕が主に課題としていたのは単語でした。一級の単語は日常会話では一切使われないようなもので、無防備に突っ込んでいった一回目の試験では二五問中八問しか当たりませんでした。そのため、二回目はとりあえず単語帳を大量に購入し、端から全部覚えてやろうと思いました。しかしこれが本当に大変で、すぐに机から離れてしまう自分がいました。これではだめだと思い、せめて英語の映画や本を見ることにしました。すると、めんどろな暗記からの逃避で始めたこの作業が実はかなり有益で、意外にも文やセリフの中などに単語帳を見ていた時には覚えられないかと思っていた単語が出てくることに気づきました。速読やスピーキングの言い回しをそこで鍛えることができたので、これだ！と思う、半分くらいの割合で学習の中にいわゆる娯楽的な要素を盛り込むことにしました。そして本番では運にも恵まれ、合格す

ることができました。これを通して僕が言いたいことは、同じ勉強をするにもやはり楽しいと感じた方がはかばかしくいう事です。ひたすら机にかじりついて暗記するのもいいですが、映画を見たりの音楽を聴いたりするなどの方法で英語力を高めるのも大事なのではないのでしょうか。(高一 落合雄基)

英検一級合格  
このたびは英検についての報告をさせていただきます。僕は小学一年生から中学三年生までイギリスに住んでいました。中学二年まで現地校に通ってました。準一級は中学一年の時に取ったのですが、その後日本語の勉強をしないでいられないと気づきロンドン日本人学校に転校しました。そこから二年間は日本語の勉強をするという感じでした。立教池袋高校入学後また英検を受けることにし、過去問を解くなどの対策を行いました。合格できました。今後は「英検」という資格というよりは英語のコミュニケーションを重視し、海外で活躍できるように努めていきたいです。(高二 大橋 諒)

英国語学研修

今年も八月二日から十六日までの二週間、イギリスの Harrow School にて英国語学研修が行われました。短い期間ではあったものの、かけがえのない経験となったようです。ここでは参加生徒の声を紹介したいと思います。(引率 中川太郎)



初めての Harrow School ということで不安と楽しみの2つを抱えながら参加したこの英国語学研修では今までにない色んな経験ができました。ヒースロー空港に着いたら現地スタッフの方々が暖かく迎えてくださいました。バスに乗って着いた Harrow School はその場から感じるオーラに魅了されました。約四百年の歴史があるこの学校は普通ではない雰囲気を持ってきます。現地本場の英語で行う英語力判断テストを終え、クラス分けを行うといよいよ授業が始まります。それぞれの英語力に分けられ行うこの授業は自分の今持っている力を存分に発揮するチャンスでもあり全て英語で行うのでとても良い経験になりました。実際に問題を解いたり、時にはクイズも交えながらコミュニケーションを大切にしているのを感じました。またグループワークでは全クラスが集まりそれぞれのアイデアをシェアできてとても楽しかったです。

初めは主にアクティブ

ティで様々なスポーツ、フットボールやアーチェリー、バスケットやその他色々な事ができてとても充実していました。またロンドン市内に出た買い物をしたりミュージカル鑑賞などのイギリスでのリアルな生活も体験できてとても楽しかったです。色々な国の人と英語で話すのは決して楽しい事ではなく馴染むのに数日では話すのもあるかもしれませんがやはり積極的に話しかけてみることで大きく変わります。ふとした事がきっかけで話しかけてくれたりチャンスを作る事ができます。この研修を通して英語に対する意識も大きく変わると思います。参加してとても良かったと思っています。(高一 今田慎吾)

今回のイギリス語学研修では初めてのヨーロッパ、初めての寮生活など新しいことに期待と不安で胸を膨らませながら僕は八月二日の昼間、成田空港を後にしました。

校内での選択アクティブ  
ティでは、基本的にはサッカーと、その他の日替わりの中から選べました。日没が遅いため夕食後にサッカーをすることもありヨーロッパ人のサッカー愛を見せられました。クイズ大会やダンス大会、アーチェリーや映画鑑賞などみんなが楽しめるものばかりで楽しいひとときを過ごしました。校外でのアクティビティもいろいろあるものがあり、ロンドンの有名どころをおさえていくことも充実していました。しかし僕たちが到着する前にすでにプログラムで行っていたところも多く、残念ながら行けなかった場所もありました。



ディスカバリーグループ集合写真



キャンパー全員の集合写真

### キャンプ・ヒューストン

本年度は生徒二十三名の  
大所帯でCamp Hustonに  
参加しました。今回のキャン  
プも、参加者各々にとっ

問題なくこなせても、僕たち  
がリズムの良い言葉の  
キャッチボールができな  
かったため、自然な会話に  
なるとたんに会話につい  
ていけず悔しい思いをし  
ました。一言二言は返せても  
その次の言葉が出てこなく  
て苦労しました。しかし、同じ  
クラスだったドイツやトル  
コの友人とSNSでつなが  
ることができたのは大きな  
収穫でした。

最後に、このような素晴  
らしいプログラムを作り上  
げてくださったBASSCO  
のスタッフの方々、僕らの  
グループを指揮してくだ  
さったアクティビティリー  
ダーのCameron、僕のクラ  
スで授業をしてくださった  
Ms. Marie、引率の中川先  
生、僕を快く送り出してく  
れた両親に感謝しています。  
(高一 関口貴宏)

アメリカキャンプを経て  
この夏、僕は学校の主催  
するアメリカキャンプとい  
うプログラムに参加しまし  
た。キャンプはヒュースト  
ンとステイブンスの二つ  
があり、僕はヒューストン  
のほうを選びました。メン  
バーは中学二年から高校一  
年までの生徒が二十人ほど  
で、キャンプは十二日間。前後  
二日間は飛行機や観光、間  
の一週間は現地のサマー  
キャンプ「Camp Huston」  
に参加します。全体を通し  
て雨は降らず、メジャー  
リーグのマリナーズ対エン  
ゼルス試合を観戦したと  
きは、エドガー・マルチ  
ネスの永久欠番のセレモ  
ニーがあり、最終日には皆  
既日食まで見られたとさん

の思い出ができました。し  
かし、僕の心にやはり一番  
残ったのはキャンプ・  
ヒューストンで過ごした一  
週間でした。  
キャンプでは様々な活動  
やイベントがありますが、  
メインとなる活動はディス  
カバリータイムです。ディス  
カバリータイムでは男女  
混合の班に分かれて、カウ  
ンセラーの見守る中様々な  
遊びをして中を深めます。  
ここでは単純なルールさえ  
理解すればあまり英語が得  
意でなくても簡単に楽しむ  
ことができます。

僕は自分で言うのもなん  
ですが、英語の勉強には人  
一倍力を入れています。し  
かし実際に授業ではない所  
で英語を使ったことは今ま  
でほとんどありません。で  
した。だから、このキャン  
プが僕の初めての実験経験  
となりました。今まで外国  
に行ったことは何回もあり  
ました。しかし、聞こえてく  
る声を自分と関係のある声  
ではなく、ただの音として  
聞いてしまっていて理解し  
ようとしていませんでした。  
だから、最初は周りから  
聞こえる声全てが英語とい  
う状況にとっても動揺して  
いました。しかし、しばらく  
すると、昔とは違いその  
会話の何が聞き取れる  
ことに気が付きました。自  
分自身がどの程度英語力  
を身につけたかというの  
も大きいですが、文全体が  
わからなくても単語がわか  
らなくても、単語がわから  
なくても、単語がわからな  
くとも、単語がわからなく  
とも、単語がわからなくとも  
行く前にして

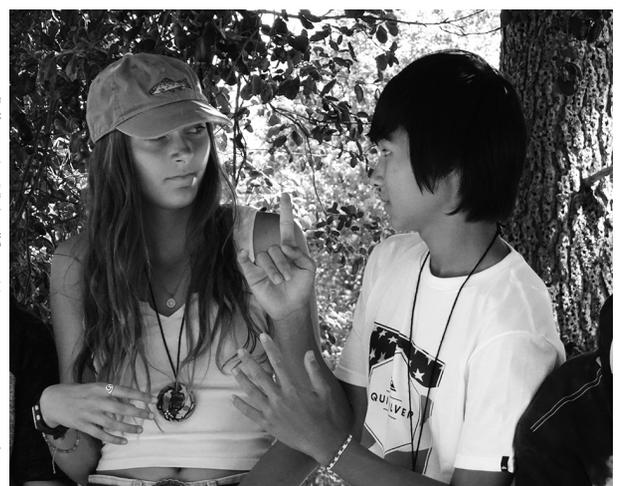
た想像より遥かに多くの言  
葉を理解することが可能で  
した。しかもそれは日数を  
重ね、互いのことをより  
知っていくにつれてより強  
い効果を発揮しました。  
アメリカキャンプは、ほと  
んど多くの自信を、また、そ  
れ以上に多くの向上心を与  
えてくれました。このキャン  
プで少しは英語が通じた  
とはいえ、本来ならば相手  
は日本人がいる前提で動い  
てはくれませんが、日本人  
同士で相談しあうことも  
できません。それは、これか  
ら異文化コミュニケーション  
を始めようという人には  
少々難易度が高いです。し  
かし、日本人が一部を占め  
ていた今回のキャンプで  
は、現地の人も配慮をし  
てくれて、自分の実力を確  
認するとてもいい機会にな  
りました。安いかとはとも  
言えませんが、かかったお  
金を差し引いても十分にお  
釣りが返ってくる成果を得  
ることができました。金銭  
面に余裕があつて、アメリ  
カや英語に興味のある方  
ぜひチャレンジしてみてください  
ください。後悔をすることは  
絶対にありません。  
(中三 ロッカー ライアン)

むキャンパーの人が来まし  
た。僕のグループは、同学  
年の一人と新座の中三の二  
人、アメリカに住む十二歳  
の男子の三人と女子四人の  
十一人で、カウンセラーの  
人が三人でした。全員がそ  
ろつた後、みんな自己紹  
介をしました。緊張しまし  
たが、うまく話せること  
ができ、皆と初めて話す  
機会になりました。

### キャンプ・ステイブンス 経験を自信に

八月三日、夏の日本らし  
い暑さの中、空港で家族と  
別れるとき、「できるだけ  
英語をたくさん話してく  
れ」と僕は父に言いまし  
た。これが、僕の中で  
キャンプ・ステイブンスの  
目標だったからです。  
半年前から、サンフラン  
シスコでの自主研修やキャン  
プ中のJAPANESE DAY  
の企画など、たくさんの  
準備をしてきて、とても楽

しみな気持ちで飛行機に乗  
りました。唯一、不安  
だったことがありました。  
それは、「英語力」です。  
僕自身、英語が一年前ぐ  
らから面白く感じるよう  
になりました。普段から勉強し  
ていましたが、外国人と話す  
機会があまりなく、うまく  
話せるか不安でした。  
サンフランシスコに着き、  
二日目の自主研修。一日目  
は、皆でバスに乗って市内  
観光をし、好きなものを  
買ったり食べたりすること  
ができました。しかし、す  
べて英語で会話をしなけれ  
ばならないという問題があ  
りました。振り返ると、あ  
まり英語を使えてなかった  
なと思いました。もつと、  
積極的にコミュニケーション  
をとらないと英語は上達  
しないと思ひ、三日目から  
始まる一週間のキャンプで  
は、できるだけ多くコミュ  
ニケーションを現地の人と  
取って、仲が良くなるくら  
いまで話そうと思ひました。  
キャンプは、サンディエ  
ゴからバスで一時間ほどの  
ところであり、僕らが着い  
た次の日からアメリカに住



僕がこのキャンプで特に仲  
が良くなったのは、地元  
に住む十二歳の男の子で、僕  
が話しかけると笑顔で応  
じてくれて、とてもうれ  
しかったです。僕の家族や学  
校のことを話したり、彼  
の住んでいる場所のことや  
スポーツのことなどを聞い  
たりもして、思った以上に  
コミュニケーションをとる  
ことができ、仲良くなるこ  
とができました。キャンプ最  
終日の別れる時は、とても  
悲しくなりましたが、今  
もメールなどでよく連絡を  
とっています。

今回のキャンプステイ  
ブンスで僕自身が得られた  
ものは、とても大きいと思  
っています。目標であった  
「できるだけ英語をたくさ  
ん話す」ことは、大変では  
ありませんでしたが、予想以上  
に良い結果で終えることが  
でき、自分にとって大きな  
自信になりました。また、  
改善すべきところもよくわ  
かりました。英語の発音や  
英文を作るスピード、現地  
の人の英語の速さに慣れる  
ことなど、いくつかありま  
したが、もつと英語を学ん

今回のキャンプステイ  
ブンスで僕自身が得られた  
ものは、とても大きいと思  
っています。目標であった  
「できるだけ英語をたくさ  
ん話す」ことは、大変では  
ありませんでしたが、予想以上  
に良い結果で終えることが  
でき、自分にとって大きな  
自信になりました。また、  
改善すべきところもよくわ  
かりました。英語の発音や  
英文を作るスピード、現地  
の人の英語の速さに慣れる  
ことなど、いくつかありま  
したが、もつと英語を学ん

た。僕のグループは、同学  
年の一人と新座の中三の二  
人、アメリカに住む十二歳  
の男子の三人と女子四人の  
十一人で、カウンセラーの  
人が三人でした。全員がそ  
ろつた後、みんな自己紹  
介をしました。緊張しまし  
たが、うまく話せること  
ができ、皆と初めて話す  
機会になりました。

た。僕のグループは、同学  
年の一人と新座の中三の二  
人、アメリカに住む十二歳  
の男子の三人と女子四人の  
十一人で、カウンセラーの  
人が三人でした。全員がそ  
ろつた後、みんな自己紹  
介をしました。緊張しまし  
たが、うまく話せること  
ができ、皆と初めて話す  
機会になりました。

た。僕のグループは、同学  
年の一人と新座の中三の二  
人、アメリカに住む十二歳  
の男子の三人と女子四人の  
十一人で、カウンセラーの  
人が三人でした。全員がそ  
ろつた後、みんな自己紹  
介をしました。緊張しまし  
たが、うまく話せること  
ができ、皆と初めて話す  
機会になりました。

で、英語を自由自在に話せるように努力したいと思えます。  
(中三 山口高明)

### Global Link Singapore

海外で自分の考えを発表・発信することは、高校生活ではなかなか経験することができませんが、私が参加したグローバル・リンク・シンガポールはその数少ない場の一つです。グローバル・リンク・シンガポールとは、科学・社会課題をテーマに国際舞台で発表や議論を行う、アジアの高校生アイデアコンテストです。今回、立教池袋高等学校からは二名がポスターセッションに出場(科学と社会の二部門)しました。

初日、シンガポール国立大学の見学と二日目に行われるポスターセッション本番へ向けたリハーサルを行いました。シンガポール国立大学の見学では、班に分かれて学生が一人ずつガイドとして付きました。構内には、学生のためにジムやプールなどの施設が充実し、世界の大学ランキング



でもアジアトップの大学を見学することは、最先端の研究や施設などを見ることのできる貴重な経験となりました。リハーサルでは、ポスターセッションとして海外の人たちと英語で発表・質疑応答し、自分のテーマに興味を持ってもらうために積極的に話しかける必要があったため、あらかじめ用意しておいた原稿を頭の中に入れてながら、相手がいることを想定して話すこと意識し、練習しました。

二日目、発表当日はオリジナルセッションとポスターセッションの二つが交互に行われました。ポスターセッションでは、なかなかうまく自分の言っていることが伝わらず、発表後はやり切ったという感情と、もう少しうまくできたのではないかと入り混じっていました。ポスターセッションでは審査員や発表者が得点シールを持っていて、その合計点で順位が決まりますが、3ポイントしかもらえなかったことも先に述べた複雑な感情となった要因でした。

三日目、シンガポールの経済事情やカプトムシの羽を遠隔操作する研究の講演を聴きました。シンガポールが今、積極的にオフイスを貸し出し、その技術を「シンガポールの技術」として海外に提供していることや、シンガポールの経済発展の裏事情など、日本が抱えている問題に対する解決策にも通ずる話を聴くこ

とができ、とてもためになりました。四日目は一日自主研修であったため、引率の先生とともにどのように行動するかを決めました。国立博物館や水族館などの施設に行き、シンガポールの観光を満喫することができました。三日目までは観光らしいことが少なかったため、この日はシンガポールの文化を体験することができました。

このグローバル・リンク・シンガポールが初めて自分の考えを発表できた場であり、様々なことを肌で感じる事ができました。英語によって自分の意見の発信することの難しさを感じるとともに、伝える積極性の大切さを学ぶことができました。  
(高一 角田大司郎)

### UCL-Japan Youth Challenge 2017

今回、僕はイギリスのUCL大学にて、毎年夏に行われるUCL Japan Youth Challenge という短期留学のプログラムに参加しました。UCL大学とは、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの略でありこの大学は伊藤博文や井上馨など長州ファイブ、夏目漱石、小泉純一郎など日本に多大な影響を与えた人物が留学していた所です。このプログラムでは、大学のレポートやゼミなどに参加したり、ノーベル賞を受賞した生物学者のジョン・ガードンさんなど著名な教授やロンドンで活躍している日本人の講義を受けたりしました。さらに、イギリスの大学に進学した方から日本とイギリスの大学の違

### UCL

いや、イギリスの大学だからこそある魅力を教わりました。例えばイギリスの大学は多国籍で一緒に寮生活していくうちに様々な国の文化に触れられるというところが、彼らからの話によりこのプログラムに参加する前より海外の大学に興味が増え、少し行きたいと思えました。また、UCL Grand Challenge では社会問題を解決するために企業する、というテーマで現地の高校生と混合でグループになり英語で話し合いました。そして、今社会に必要なことをシンボジウムで関係者の皆さんに発表しました。僕たちのグループは認知症の方に暮らしやすくしてもらうため、機械を作るというものでした。

僕は、夏休みにUCL Japan Youth Challenge というロンドン大学で開催された将来世界をリードしていく人材を育成するプログラムに参加しました。そのプログラムは、日本人の高校生約四十人とイギリス人の高校生約十人とで言語の垣根を超えて同じ時間を楽しみ共有することができました。私たちは、その大学で英語でノーベル賞受賞者のレクチャーを受けたり社会問題についての討論を行いました。イギリスの生徒は、発言力が優れており、強い積極性を感じました。私たちは数ある社会問題の中から教育に関する問題を解決すべき問題として日本の他校

の学生、イギリス人学生と意見を交換し合いました。そこではまず初めに、自ら発言する勇氣が必要で、それを乗り越えたものを、自分が発想したことを、イギリス人について問われる力が問われました。このプログラムを通して、私たちは挑戦すること、自分を客観的に見る能力を持つことの大切さを学びました。失敗しても挑戦することに意味がある、と広く言われていますがこの言葉の意味は自分自身で経験して初めて理解することができるとかと思えます。これから進級していくにつれ、自分がこれまで経験したことのないような場面にたくさん出会うと思います。しかし、失敗を恐れず、これは自分が成長するための糧だと思っていきたいと思います。  
(高一 井村大希)

### 学友会活動

#### 高校サッカー部 二次トーナメント進出

今年度の東京都高校サッカー選手権大会一次トーナメントにおいて、三回戦を勝ち抜き、二次トーナメント進出を決めた。

二次トーナメントからは東京都代表を争い熾烈な戦いが予想される。これまでの戦い、今後の大会に臨む意気込みを選手代表に書いてもらいました。

私たち高校サッカー部は、八月中旬の大会に向けて、夏休みの間練習に励んだ。初戦の聖徳学園戦は、セットプレーや、自分達が練習してきたグラウンダーの速いクロスからの形で得点でき、結果8得点を取



片倉高校で毎年二次トーナメントに出場している実力のあるチームである。前半、PKを外してしまったが、その後コーナーキックを直接ゴールに入れ先制することができた。しかし、この試合は守備の時間が多く何度も失点の危険があったが、一つ一つの球際の強さ、体を張ったプレーができたことでダメ押しの一ポイントを取り、二次トーナメント進出を決めることができた。

一次トーナメントでは自分たちのサッカーに自信を持つことができたものの、セットプレーの弱さなど多くの課題点が見つかった。二次トーナメント初戦は十月に行われる。残りの時間どういった姿勢で練習に取り組みむかがこの先勝ち残れるか重要となってくる。特に、高校三年生にはこの時期に練習・試合ができることに感謝してほしい。そして、後輩は高校三年生の姿勢から自分達に足りないものを学び、新チームの活動に繋げてほしい。

最後に、高校サッカー部の目標は、都大会で一勝することである。目標達成まであと一歩のところだが、現状に満足せず、さらに上を目指していきたい。また、モチベーションを高く保ち、日々の練習に取り組む。そして、初戦の相手の暁星高校は強豪校だが、臆することなく、全力で戦いチーム一丸となって勝つことができるよう頑張りたい。  
(部長 高三竹内慎之介)

### 中高水泳部 夏の成果

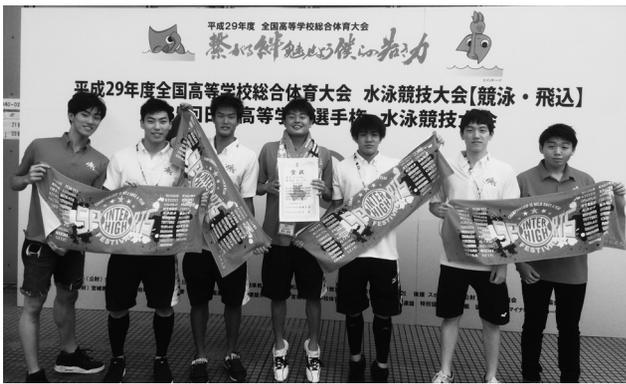
#### ▼中学水泳部

関東中学校水泳競技大会  
二〇〇mバタフライ  
第六位 桐山心成 (三年)

#### ▼高校水泳部

インターハイ  
四〇〇m自由形  
第五位 澤田夏樹 (二年)  
四〇〇m個人メドレー  
第十位 澤田夏樹 (二年)

四〇〇mリレー 出場  
荒井祐哉 (三年)  
高野大祐 (三年)  
岡田凱人 (二年)  
澤田夏樹 (二年)



この夏、中学は予選会にて全国大会の標準記録を突破しながらも無念の失格。高校でもインターハイ予選会でインターハイに進める記録を持ちながらも十分に力を発揮できず、駒を進めることができないなど、中高共に、すっきりしない

レースが続いた水泳部であった。そんな中、インターハイでは高校二年の澤田夏樹が十三年ぶりに決勝に進出し、五位入賞。見事な活躍であった。本人は三位とわずか〇・三秒差だっただけに悔しさを見せ、来年のリベンジを強く誓った。

中高共に今年の悔しさを糧に大きく成長し、来年の更なる活躍に期待したい。(顧問 酒井一哉)

以下は関東大会に出場した中学生とインターハイに出場した高校生の振り返りである。

●関東中学に出場して  
僕がこの三年間で体力面でも、精神面でも、成績面でも一番苦しくて辛かった時期は中二の夏を終えた頃から中三の夏まででした。具体的には、まず体力面では練習のコース編成が変わり、練習の質やレベルが上がってきたことが挙げられます。そして、精神面では、水泳部は夏の大会が終

わると代替わりするため、僕たちは中学校の最高学年としてチームを引っ張って行かなくてはならない立場になりました。そこで大きなプレッシャーのようなものを感じました。正直、僕には後輩をまとめる力はありません。でも、同じ学年の仲間達がいってくれたので、何とか乗り切れました。こんな僕も何か同じ学年の仲間達の力になれないかと考え、自分は泳力で部活を引っ張って行こうと思

がたさでした。千葉で行われたため、応援に来てくれた選手は多くはありませんでしたが、僕一人のために応援に来てくれた先輩や後輩、何よりも夏まで一緒に頑張ってきた中三のみんなが来てくれたことがとても嬉しかったです。僕がこの夏までの三年間を通して感じ

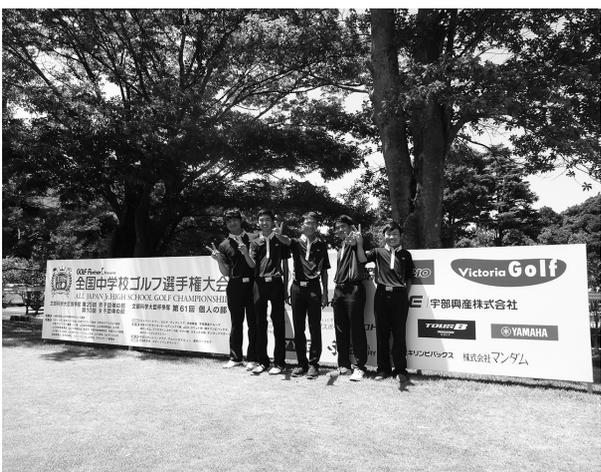
てきた、仲間達と一緒に頑張っている人達のありがたさを、これから感じる後輩達へ伝えることが本場の役目であり、やり切らなくてはならない大切なことなのかもしれません。(中三 桐山心成)

インターハイに出場して  
高校生活最後の夏は、思うような結果を出すことが出来なかった。

私は、宮城県の仙台市で行われたインターハイに四〇〇mリレーで出場した。しかし、インターハイの予選会でも関東大会で、ベストを尽くすことが出来ず、一年前は出場することが出来た個人種目での出場権を逃してしまった。とても情けなく、悔しい思いでいっぱいだった。

そしてインターハイ当日、四〇〇mリレーは、チームのベストタイムを更新はできなかったが、リレーメンバー四人で組む最後のリレーを楽しんで泳ぐことができた。自分の出番が終わると、私は普段一緒に練習している仲間を応援した。全国大会はやはりレベルが高く、選手達のレースを見てみると、とても興奮し、楽しむことができた。しかし、高校一年生で初めてインターハイに出場した時から、決勝の舞台で戦うことを目標にしていた私にとって、応援することしか出来なかった最後のインターハイは、悔しかった。しかし、良い結果を残し、自分だけ取り残されたような気持ちだった。私も、見る人たちを楽しませるようなレースがしたかった。

しかし、こんな私を信じ



2017年度 全国中学校ゴルフ選手権大会 団体の部  
[山口県 宇部72CC 万年池西コース]

	合計	(初日)	(最終日)
① 沖学園 (福岡)	436	(215)	(221)
② 埼玉栄 (埼玉)	447	(226)	(221)
③ 高川学園 (山口)	456	(225)	(231)
↓			
⑦ 立教池袋 (東京)	490	(241)	(249)
井上 和馬③	157(78・79)		
森山 正斗③	165(85・80)		
戸上耀之佑③	172(82・90)		
橋口 嘉人②	81(81・一)		
高畑 有佑③	96(一・96)		

※団体は4人中、上位3人の合計ストロークで順位を決定。

以下は、全国大会に出場した生徒の感想です。(顧問 永田真一)

八月、僕たちは全国中学校ゴルフ選手権・団体の部において、十年連続出場ということで表彰を受けました。僕はゴルフ部の一人として、その場に立ち会えたことを、とても嬉しくまた誇らしく思っています。

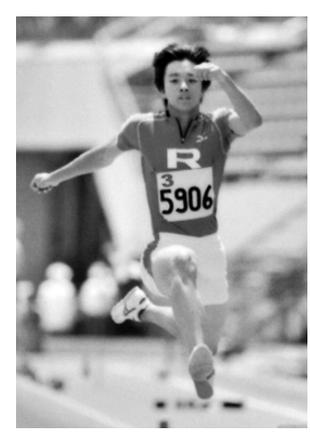
この大会は中学ゴルフ部の大会としては、大きな試合であり、毎年八月に開催されます。全国大会に出場するには、六月に行われる関東大会の予選を通過しなければなりません。ゴルフは個人スポーツというイメージが強いと思いますが、団体戦は四名の選手のうち、上位三名のスコアを足し、各校で競い合います。

この夏、中学ゴルフ部は団体の部全国大会十年連続出場を達成し、全国大会の開会式という大きな舞台で日本高等学校ゴルフ連盟より表彰を受けました。今年度の団体の選手は、「十年連続出場記録」というこれまでにない大きなプレッシャーを背負い、それを見事にはねのけ、さらに全国大会(8/4・5 宇部72CC)でも15校中7位の(6位入賞に迫る)好成績を収めました。

僕は小さい時からゴルフをやっている、中学一年生の時から三年連続でこの大会に出場しています。一年生の時はすべてが初めての経験で、予選からとても緊張したのを覚えています。またそれまではどんなスコアを出しても自分一人のこととして頑張るといっても新鮮でした。そして、みんな力を合わせて予選を勝ち抜き、全国大会に出場することができました。さらに二年生の時も、全国大会に出場できたので、僕たちが最高学年になる今年も、絶対に予選で敗退するわけにはいかないという気持ちでした。

しかし、予選の六月ごろ、実は僕のゴルフの調子は良くありませんでした。ボールがまっすぐいかず、左右どちらにも曲がってしまふような状態で、とても不安でした。案の定、本番の前半九ホールを終えた時点では、このままでは予選通過は難しいかもしれないという結果でした。でも、諦めるわけにはいかないと、思い込みました。それはやはり団体戦で、仲間がいたからこそ抱くことができた強い思いでした。後半九ホール、耐え忍ぶゴルフでしたが、仲間のみんなも頑張っているのだと思い、しっかりと自分のベストを出そう

と、自分の中に普段とは違う強い気持ちが生れま... 陸上競技部 夏の成果



残念ながらインターハイ出場は叶わなかったが、次の15mの壁の突破を目標に...

中学キャプテンの中3佐藤嶺も棒高跳の選手である。7月に行われた...

陸上競技部 夏の成果 長らく更新されていなかった伊東浩司さんの日本記録(10秒00)が桐生祥秀選手によって19年ぶりに更新された(9秒98)...

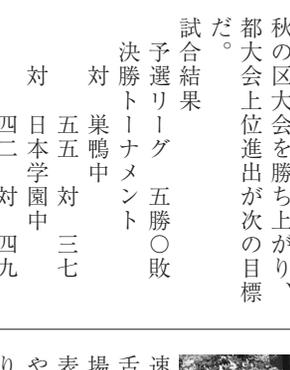
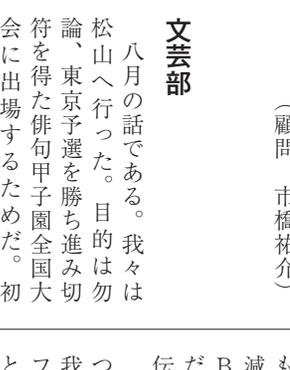
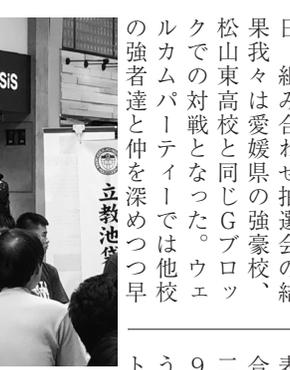
中学卓球部 夏の活躍 三年生にとって最後の公式戦は、豊島区大会で団体・個人(シングルス、ダブルス)で優勝し、関東、全国を目指す七月の都大会へ出場した。

文芸部 八月の話である。我々は松山へ行った。目的は勿論、東京予選を勝ち進み切符を得た俳句甲子園全国大会に出場するためだ。

文芸部 二日目、開会式が終わりついに試合が始まった。我々はお手製の紫のユニフォームに身を包み会場へと向かった。

3で惨敗、松山東がこのリーグから決勝へ勝ち進むこととなり、我々は悔し涙を飲むこととなった。

立教池袋 高等学校 (東京都) の学生たちが、立教池袋の旗を手にして笑顔でポーズをとっている写真。



立教池袋 高等学校 (東京都) の学生たちが、立教池袋の旗を手にして笑顔でポーズをとっている写真。

**中学演劇部特別賞受賞**

七月十六日、十七日の二日間にわたり、日本大学第二中学校・高等学校九十周年記念ホールにて、第四十四回東京私立中学校演劇発表会が行なわれました。本校演劇部は中島悠裕(中学三年)作「ANOTHER WORLD」で特別賞を受賞しました。この作品は、親友を事故で亡くした少年が死後の世界に迷い込むお話です。今年の中学演劇部は三年生四人、一年生四人で、入部したばかりの一年生も含めて全員で演じました。高校生のサポートも受けながら、演技やタップダンスの練習に励み、立教池袋の演劇部らしい作品を発表することができたと思います。これからも大会やR.I.F.での発表などで、観客に楽しんでもらえる作品を作っていってほしいと思います。

(顧問 石田麻保)



**鉄道研究同好会**

鉄道研究同好会の一大イベントである全国高校生鉄道模型コンテストへ向けての活動は今年の三月から始まった。鉄道模型コンテストは文部科学省後援のもと、東京ビックサイトで毎年行われている高校生によって製作された鉄道模型の祭典である。その中で優秀な作品の表彰が行われる。

今年も模型製作を手とするメンバーを中心に制作し、リアルな情景と創造性の豊かさを評価され、ベストクリエイティブ賞を受賞した。受賞の背景には模型製作を行う上で、様々な問題や苦労に見舞われた。

三月に模型のモデルとなる伊豆熱川駅へ赴いた。卒業生の送別会を兼ねた取材旅行となり、限られた時間の中で調査となり、数少ない素材を頼りに制作を開始した。四月から七月の間は、放課後の部活で進めていき、テスト期間による時間制限も大きな壁となり、ほとんどの活動は夏休み期間中に持ち越されることとなった。夏休み期間中は毎日、八時〜十七時まで休みなく活動を続けた。こまごまとした模型を製作するのは時間と労力を要した。同じく模型製作を行っている高校一年生と中学二、三年生に作業を手伝ってもらい、協力しあって進めていった。

製作は思うように進まず、鉄道模型を東京



(高二 植田優斗)

**数理研究部**

学生対抗VRコンテスト全国大会4年連続出場  
数理研究部はここ数年VRに関する研究を行っている。日本では国際学生対抗ヴァーチャルリアリティコンテスト(IVRC)に参加しているが、4年連続で今年も採択していただくことができ、十月二七日〜二十九日に日本未来科学館にて最終審査および展示をすることになった。

三年前にエントリーしたときはU18という高校生の大会であった。VRという言葉が、完全に定着した今、参加資格がU20に変わり、参加資格が高等専門学校(高専)の四、五年生、大学一、二年生にも応募団体も増え、応募団体数も過去最高になった。時代の流れではあるが、参加する側にとっては厳しい時代になった。

さて、今年の展示作品は「走れ!走れ!走れ!」である。鎌倉時代にあった犬追物をVRで再現し、しかも追われる犬になるコンテンツである。追われる犬になる自作コントローラ、矢が当たった時の衝撃体験ゼヒR.I.F.にて体験してほしい。

(顧問 内田芳宏)



**吹奏楽部**

吹奏楽部の夏は、八月初旬にある吹奏楽コンクールに全精力を注ぐ。今年も中学生は八月四日、高校生は八月一二日にコンクールが行われ、部員たちはそれぞれ練習を積み重ねて本番に臨んだ。コンクールなので結果は付いてくるが、自分自身はそれ以上に、自分自身の実力を高め、先輩方を超越する場所だと思っている。

吹奏楽部の部員は大体そうだが、初めて吹奏楽の舞台を見るのがコンクールで、初めて舞台を踏む場所もコンクールなのだ。自分は中一の頃、初めて見る高校生の先輩方の演奏を聴いて、正直鳥肌が立った。その感覚は今でも残っている。

その演奏は、ほんの二三点高ければ東日本に行けたという物凄い演奏だった。それとは逆に、中学は、銅賞で、残念な結果に終わってしまった。その時の気持ちはあんな演奏をしてみたいけど将来出来るだろうかという「憧れ」と「不安」だった。

そして部長になった今、どちらかというと「憧れられる」立場になった訳だが、自分はその先輩になれたらどうかというのをいつも思っている。

実は、今年のコンクールは金賞にあと一歩で届かず、今年卒業する先輩方に悔しい思いをさせてしまったのが後悔だが、それをバネに、また、プロセスを大事にして部員一同頑張り、来年は今まで以上

**ボランティア活動など**

ワークキャンプ

第四十八回ワークキャンプは、医療法人社団ほたか会が経営する群馬県高山村にある高齢者福祉施設「グループホーム高山の家」で二泊三日で実施しました。高校生三名と引率二名、OB、引率で合わせて約九名の参加でした。

例年私たちの宿泊は、施設側のご配慮によって、施設内の建物を使わせていただき、自炊をしています。私たちの訪問に合わせ、利用者さん向けの納涼祭が企画され、今年は、ゲーム大会で一つのブースを企画から実施まですべて任せられました。生徒が考えた結果、輪投げを企画し、段ボールなどを使い、道具を制作しました。輪投げの得点により利用者さんに折り紙の景品も準備し満足していただきました。

また、短い時間ではありましたが、利用者の方たち



との交流も行いました。以下に参加生徒の感想を載せます。

「私は高齢者キャンプに参加するのは今回が二度目であり、OBの方たちも参加されている中でまだ経験は浅いですが、今回の高齢者キャンプも、前回のキャンプ同様楽しむことができました。

普段生活している中でお年寄りとお話する機会はずっと無く、この高齢者キャンプはお年寄りとお話ができる貴重な機会である。しかし、いざお年寄りの方々と目の前にすると、去年も参加したのにも関わらず、共通の話題が無かったりどのように話しかけていいのかわからない。そんな中、自







でもそれを責めるものは一人もいなく、そのミスを含んでフォロワーしようとす  
る団結力があつた。発表前  
日、僕らは部屋に集まりプ  
レゼンの最終確認をしてい  
た。時計はすでに夜二時を  
回っていて、ふつうならも  
う眠くて起きているのも困  
難な時間だった。しかし僕  
らの班のメンバーはみな闘  
志にあふれ、堂々としてい

た。緊張よりも自信のほう  
が上回っていたのである。  
このような様々な努力の積  
み重ねもあり、僕らチーム  
7は発表で賞を獲得するこ  
とができてとても嬉しく思  
う。

このキャンプにこれから  
参加する皆さんに伝えたい  
ことが二つある。一つ目は  
「チャレンジ&アドベン  
チャー」である。このキャ  
ンプには探求心が  
強く求められると  
思う。何事にも興  
味を持ち、積極的  
に行動すること  
で、自分にはない  
「新しい何か」を  
発見することがで  
きるだろう。2つ  
目は「全力で楽し  
む」ことだ。もち  
ろん時には辛い場  
面だつてある。し  
かしすべては楽し  
んだもの勝ちだ。  
僕がそうだったよ  
うに、仲間と一緒  
ならば辛さを楽し  
むに変えることが  
できる。変に強が  
る必要はない。

「ありのままの自分」を最大限表現  
することで、最高  
の結末を迎えるこ  
とができるはずだ。  
キャンプを通じ  
て僕はかなり成長  
することができ  
た。それはチーム  
のメンバーや参加  
者の生徒、家族や  
メンターの先生、  
スタッフの皆さん  
など多くの方々が  
支えてくださった  
からである。日韓  
高校生交流キャン  
プで過ごした日々  
は一生忘れること  
がない最高の思い

出だ。改めて感謝の意を表  
したいと思う。本当にあり  
がとうございました!  
(高一 神野優紀)

去年私は東北で行われた  
このワークショップで今ま  
でにない貴重な体験をさせ  
て頂き、今回はイギリスの  
ケンブリッジ大学での研修  
という事で、さらなる貴  
重な体験ができるのではな  
いかと思ひ参加させて頂き  
ました。

今回は前回と逆で私たち  
日本人が研修の前に早めに  
イギリスに行き、英国立教  
に五日間滞在してイギリス  
を観光しました。イギリス  
の有名な British Museum  
や、最終日に訪れた  
Natural History Museum  
は日本では見られないもの  
も多くあり、とても為にな  
りました。UCLのキャン  
パスで日本人の教授による  
説明や、興味深い彼の研究  
内容を聞くことができました。  
また、勉強だけでなく  
Bringing Gap Beach という絶  
景や美術館にも訪れまし  
た。このような事前の活動  
でイギリスの雰囲気を知る  
ことが出来ました。

その後ケンブリッジ大学  
に向かいました。大学の寮  
である Murray Edwards に  
残りの日は滞在しました。  
ほとんどの人が二人で一部屋  
であり、相部屋の人は同じ研  
修に参加しているイギリス  
の高校生でした。日頃はこ  
のような体験がないので初  
めは緊張感がありました  
が、私の相部屋の人はとて  
も優しく楽しく過ごすこ  
とが出来ました。

初日は、オーブンングセ  
レモニーがあり一緒にこの

ワークショップに参加する  
イギリス人の学生と対面  
し、次の日から同じ研究を  
する仲間との交流を深めま  
した。みんなが積極的に話  
しかけに行き、イギリス人  
もとてもフレンドリーで楽  
しい時間を過ごすことがで  
きました。

翌日から研究が始まりま  
した。個人的なことなので  
すが、私はジェットエンジ  
ンのコンプレッサーのプレ  
イド作成のプロジェクトに  
参加しました。ケンブリッ  
ジ大学のエンジンの研究所  
はとても広く、多くの素晴  
らしい機材がありました。

私は、まずジェットエンジ  
ンの仕組みやコンプレッ  
サーとは何かを先生から教  
えて頂きました。次にオリ  
ジナルのコンプレッサーブ  
レードのデザインを八時間  
ほどかけて行い、デザイン  
したオリジナルのプレード  
を3Dプリンターでプリン  
トアウトしました。次にそ  
の作成したオリジナルのブ  
レードを機械で計測し、性  
能を研究しました。その結  
果を使い元々あるベシック  
クなプレードとの性能の差  
を比べました。オリジナル  
のプレードはベシックな  
プレードより性能は良い  
が、かなり薄いため安全性  
が低いという結果になりま  
した。そのため、実戦で使  
用するとうまくいけばヒー  
ロー、事故になれば大惨事  
だそうです。全てを兼ね備  
えた優れたプレードを作る  
のはとても大変なので、八  
時間で作成するのは難  
しかったです。研究を通し  
色々な専門的な知識や専門  
的な英語を多く知り、苦労  
しましたがとても楽しく興  
味深い研究でした。

最終日前は、七つのグ  
ループが一緒に集まりそれ  
ぞれの研究について紹介し

合いました。大学の実験室  
でなければ使用できない機  
材を使用している研究が多  
く、全てのプログラムが楽  
しそつでした。

日本に戻り、今回のプロ  
グラムを改めて振り返って  
みると、不安もありました  
が期待通りの充実した一週  
間半であり、この研究での  
学びを今後様々な方たちで  
生かして行きたいです。ま  
た、このワークショップを  
支援して下さつていただ  
く方々に感謝したいで  
す。

(高二 塩井淑大)

合いました。大学の実験室  
でなければ使用できない機  
材を使用している研究が多  
く、全てのプログラムが楽  
しそつでした。

日本に戻り、今回のプロ  
グラムを改めて振り返って  
みると、不安もありました  
が期待通りの充実した一週  
間半であり、この研究での  
学びを今後様々な方たちで  
生かして行きたいです。ま  
た、このワークショップを  
支援して下さつていただ  
く方々に感謝したいで  
す。

(高二 塩井淑大)

**+** 今月の聖句 **Romans 12:1**

I beseech you therefore, brethren, by the mercies of God, that you present your bodies a living sacrifice, holy, acceptable unto God, which is your reasonable service.

*When we hear the word "sacrifice" our thoughts are usually about daily life. We can "sacrifice" our time or energy for our friends or our family or our school situations, usually for minor discomfort. If you are a baseball fan, you know what a "sacrifice fly" or "sacrifice bunt" is: a way to advance the runner ahead of the batter, even though the batter will be out. Rarely do we experience more dramatic examples of sacrifice, though we are often exposed to them these days very easily on social media. So it is often forgotten that the chapel where we worship is a place to commemorate sacrifice, very dramatic and enduring. At the high center is the altar. It not just a big table, for it is a symbol of sacrifice and the focus of why we all go to chapel. It is clean and simple, but it has evolved from a messy and complex place of ritual.*

*In Romans, Paul is addressing life as ordinary people live it. How does an ordinary Christian give personal sacrifice to God? Karl Barth, the great 20th C. theologian, said "to sacrifice is to surrender, to make an unconditional gift of one's existence to God. And the best way to do that is to adopt the standards of God rather than the standards of the world." He knew this first hand because he refused to swear a loyalty oath to Adolf Hitler, was fired from his professorship, and retreated to his home country, Switzerland.*

*Keeping in mind Barth's recommendation to adopt the standards of God, we should be aware that Paul is calling us to offer "our bodies as a living sacrifice" That is, not an ending sacrifice, but one that continues. We are meant to be aware of our own physical attributes, plusses and minuses. We are meant to use our bodies in the best way possible, without shame. Also, we are not to conform, but to renew our minds, that is, our spirit. Personal sacrifice means using our gifts for all. But the other side is that by doing this, individuals also get closer to Christ in themselves, unity is fostered, and fellowship in Christ is made whole and complete.*

Chaplain Mark Stahl

合いました。大学の実験室  
でなければ使用できない機  
材を使用している研究が多  
く、全てのプログラムが楽  
しそつでした。

日本に戻り、今回のプロ  
グラムを改めて振り返って  
みると、不安もありました  
が期待通りの充実した一週  
間半であり、この研究での  
学びを今後様々な方たちで  
生かして行きたいです。ま  
た、このワークショップを  
支援して下さつていただ  
く方々に感謝したいで  
す。

(高二 塩井淑大)

